

令和2年度 第1回 横浜市建築物環境配慮評価認証委員会 会議録		
日時	令和2年6月26日（金）午後2時から午後5時まで	
開催場所	横浜市庁舎1階 市民協働推進センター（スペースA,B）	
出席者	委員	岩村 和夫 会長 秋元 孝之 副会長 岩田 利枝 委員 遠藤 純子 委員 吉崎 真司 委員
	説明者	（計画概要の説明）株式会社 竹中工務店
	事務局	建 築 指 導 部：足立部長 建築企画課建築環境担当：高橋課長、横畑係長、大崎担当、戸田担当、 田島係長（住宅再生課） 施設整備課新市庁舎整備担当：菅野課長、高松係長、飯塚係長、野口担当
開催形態	非公開	
議題	横浜市市庁舎移転新築工事 について	
決定事項	Sランクにて認証	
議事（概略）	<p><b>1. CASBEE の評価全般について</b></p> <p>（1）Q1-4.2.3 取り入れ外気への配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路に面して設置されている給気口については、水平方向・垂直方向共に、汚染源から十分な距離を確保できているため、取り入れ外気への配慮がされていると評価できる。</li> </ul> <p>（2）Q2-1.2.3 内装計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高層、中層、低層ごとの「港・海・街」という内装におけるコンセプトを明確にして計画されている点は評価できる。</li> <li>・計画されたコンセプトが更にはっきりと外観、内観から分かるとなお良い。</li> </ul> <p>（3）Q3-1 生物環境の保全と創出について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存のイチョウを保存していることは評価できる。</li> <li>・保存するだけでなく、本町通り、日本大通り、山下公園のイチョウ並木との連続性を感じられるようにするなど、一步踏み込んだ取り組みがあると良い。</li> <li>・外構の緑は、維持管理の面で市民活動との連携が為されると良い。</li> </ul> <p>（4）Q3-2 まちなみ・景観への配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市景観協議地区に定められた各視点場からの景観を考慮して計画し、都市美対策審議会での意見聴取を行っている。未完成の街区だが、今後の景観形成を踏まえて意図された計画であり、評価できる。</li> <li>・今後、新たな視点場の設定も考えられる中で、このプロジェクトがこれからの景観形成の先導的な役割を担っていくことが期待される。</li> </ul> <p><b>2. 評価された主な環境配慮項目について</b></p> <p>（1）高い省エネルギー性能と細やかな管理や制御による快適な室内環境の</p>	

	<p><b>実現</b></p> <p>ZEB Ready※1、BELS 最高ランク★★★★★の高い省エネ性能を確保している。</p> <p>ダブルスキンによる高い外皮性能の他、隣接する横浜アイランドタワーと連携した地域冷暖房による熱供給や、輻射空調方式、地中熱利用、燃料電池などの導入により省エネ性能の向上を実現している。</p> <p>また、自然通風のための換気パネルを広範囲に採用した他、執務室の温度や照明をセンサーなどで細やかに管理・制御することで、省エネと快適な室内環境の両立の実現を図っている。</p> <p>※1：再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物</p> <p><b>(2) 災害が発生しても市民を守る行政活動が維持できる防災・災害対応システムの構築</b></p> <p>災害時に基本的な市庁舎機能を維持できる、レジリエンスの向上を図っている。</p> <p>大規模地震時に建物損傷や什器の転倒を防ぐ「ハイブリッド免震システム」を備え、インフラの供給が途絶えても7日間分の非常用発電機燃料、飲料水、トイレ洗浄水を確保し、市庁舎における業務やサービスの継続を可能としている。</p> <p>また、主要な電気室、機械室を4階に設置することで、震災だけでなく津波や洪水などの浸水時における被害軽減を図っている。</p> <p><b>(3) まちの賑わいと地域の活性化を促進する豊かなオープンスペースの創出</b></p> <p>横浜市と市民との協働・共創の場として、様々なイベント等に対応可能なアトリウム（三層吹抜け：約1,200㎡）をはじめ、展示スペースや、建物周囲に広いオープンスペースを複数設置し、豊かな市民力の発揮及び地域の活性化の促進を図っている。</p> <p><b>(4) 周辺の主要地区を結ぶ結節点としての立地を活かした動線計画と景観形成</b></p> <p>「みなとみらい21地区」「北仲通北地区」「関内地区」「桜木町・野毛地区」の4つの地区の結節点となる立地性を活かし、各地区間のゲート性に配慮した動線計画と景観計画を行うことにより、周辺地区相互の回遊性を高めながら、街全体での魅力向上を図っている。</p>
資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次第</li> <li>2 委員一覧</li> <li>3 審議項目</li> <li>4 CASBEE 建築(新築)評価マニュアル(2016年版) 抜粋</li> <li>5 環境配慮項目(案)</li> <li>6 CASBEE 評価シート</li> <li>7 CASBEE 公表シート</li> <li>8 設計趣旨</li> <li>9 説明資料</li> </ol>

※本会議録は、令和2年7月14日各委員に確認を得、確定しました。